

次世代にすばらしい環境を残すために

= 練馬区環境基本計画 2001 - 2010 の改定にあたって =

右の写真をご覧ください。私たちの住む青い星、地球の画像です。

今、この地球が温暖化という危機に直面し、たいへんに苦しんでいます。地球に住む一生物である人間の使う大量のエネルギーのために・・・

私は、この写真を見るたびに、“世代の責務”ということをおもひ起こします。人類の長い歴史、そしてそれよりもはるかに長い生物の歴史、地球の歴史からみれば、人類による近代



The Blue Marble 2000, NASA*

文明が展開した期間は、ほんの一瞬です。人類は、この一瞬のために、すでに多くの資源を使い、これからも使い続けようとしています。その結果、取り返しのつかない温暖化を引き起こすことは、次世代に対する責務という点から見て、大きな問題です。私たちの世代は、この青い星を、きちんとした状態で次世代に引き渡さなければなりません。

練馬区では、平成 18 年に練馬区環境基本条例を制定、施行し、環境を守る取り組みを区民・事業者・区をあげて進める基本的な枠組みをつくりました。そしてこのたび、この条例を受けて、区の環境保全施策をどのような方向に、どのような内容で進めていくかを定める環境基本計画の改定を行いました。

私は、環境指標の導入をはじめ、さまざま仕組みを活用しながら、この計画を着実に進めることにより、大気、水、みどりなど、私たちのまわりの環境をより良いものにしていくとともに、地球温暖化などグローバルな環境問題に対しても、地域としてできることを工夫を凝らして推進し、その防止に貢献することで、次世代にすばらしい環境を残す責任を果たしていきたいと考えます。

区民の皆様にも、区とともに、地域の、そして地球の環境を守り良くするための取り組みを進めていただきますよう、今まで以上にご協力をお願い申し上げます。

平成 19(2007)年 9 月

練馬区長 志村 豊志郎



*ザ・ブルー・マーブルは、1972 年アポロ 17 号の乗組員によって、地球からおよそ 4 万 5 千 km の距離から撮影された最初の鮮明な地球の写真のことです。その後で作られた同様の地球の画像（高解像度の合成画を含む）も「ブルー・マーブル」と称されます。この画像は、3 種類の人工衛星からのデータを総合して得られたデジタル画像で、NASA（米航空宇宙局）が 2000 年に公表しました。